



地球のいのちの営みと調和、融合して  
共に生きるコミュニティづくりの情報を発信する

# いのちの森通信



公益財団法人  
いのちの森  
文化財団



Vol. 20  
2011.Mar.

平成23年10月1日発行  
編集 山下 薫

発行/ 公益財団法人いのちの森文化財団 〒380-0888長野市大字上ヶ屋2471番地2198 TEL 026-239-0010 FAX 026-239-0011  
ホームページ http://inochinomori.or.jp Eメール zaidan@inochinomori.or.jp

シリーズ「自然と共生する社会をどう作るか」を始めるに当たって  
今回から5回に亘り、表題のようなシリーズを始めます。これは先回の5回シリーズに続くものです。今回の第1回は、その全体概要を予め紹介しておきたいと思っております。

このシリーズは特に、大震災がもたらした惨禍から、何を学び取るかを考えながら、これからの社会のあり方を考えてみたいと思っております。それは、単に防災対策といった話を越えて、街の姿や産業、技術といったハードのことから、価値観や人の生き方といった倫理観に至る様々な側面に亘ります。今後の4回はそれらを順次考えていく予定です。

第1回 今後の予告編  
「東日本大震災が問いかけるもの」  
広範な議論の高まり

3月11日の東日本の大震災は、これからの社会のあり方に根本的な問いかけをしたものと思われまます。それは「社会構造」だけではなく、「精神構造」にまで及びます。さらに、このことは国内に留まらず、世界全体にも相当の影響を与え、今後とも与えていくだろうと予感されます。この多大な犠牲を無にしないためにも、この震災が与えてくれた教訓を活かさなければなりません。

第2回 社会の構造に関する議論  
1-1 「人と自然との関係」

映像で見るだけでも、我々の文明と自然の関係について多くのことを教えられました。一つは、「恵みを与えてくれた『自然』が同時にそれを根こそぎ奪い去る」ものであるということです。漁業や農業など一次産業が生業である彼の地は、自然の恵みがその豊かな社会を創ってきたことが映像からも実感されますが、それを一瞬で消滅させた

のも自然です。これを考えると、自然との付き合いの仕方というものを、改めて真剣に考え直すことが求められているのでしよう。

自然の脅威が人の想定を越えることは避けがたいので、自然を『克服』するのではなく、『順応』または『適応』するということの大事さが、改めて認識されるようになりました。これは、天災を『想定』することの難しさと関係し、一方で人災と言われる「核事故」のリスクをどう評価するかという課題にも関わります。

現代都市は人工空間であり、家や土地利用、インフラなどのほとんどが人工物で構成されるので、街づくりに対して技術論は大事でしょう。しかし、そもそも街というのは歴史と風土と人の営みで時間を掛けて作り上げられるものであるから、これまでの歴史の蓄積をどう再生するのか、また新たな地域文化をどう作り上げていくのか、などの考察こそ大事になるでしょう。(表1)

連載 自然と共生する社会をどう作るか

## 東日本大震災が問いかけるもの

内藤 正明

(京都大学名誉教授)



1-1 「人と自然との関係」  
映像で見るだけでも、我々の文明と自然の関係について多くのことを教えられました。一つは、「恵みを与えてくれた『自然』が同時にそれを根こそぎ奪い去る」ものであるということです。漁業や農業など一次産業が生業である彼の地は、自然の恵みがその豊かな社会を創ってきたことが映像からも実感されますが、それを一瞬で消滅させた

1-2 「エネルギー源と技術の方向」  
次の大きな課題は、核エネルギーの是非の判断です。原発を拒否する世論が高まれば、これからのエネルギーの選択の選択が問われることになりまます。その時代の文明を決めてきたのはエネルギー源であり、木材から石炭に変わって産業革命が一気に進み、それが石油になって、急激に「石油文明」の豊かさをもたらしました。

2-1 「社会観をどう変革するか」  
原発問題を契機にして、技術の功罪を改めて論じる必要があるでしょう。どのような技術にもその両面があります。問題はそれが誰にいくのかということ。原発推進派の代表的なK

2-2 「世界からの共感」  
被災地の様子をニュースで見た世界の人々は、被災地の人々とそれに対して日本人が示した行動に対して、大きな反応を示したことはすでに知られているところでしょう。あれだけの災害の中で、混乱も起こさずに皆が助け合いながら整然と行動している姿に、我々も改めて東北人の我慢強い姿に涙を禁じえなかったのだ、それを見た世界の人が、「略奪や強盗もなく、助け

のシリーズで紹介した通りです。問題はそれへの対処方針で、これまでの国の方針は、原子力を前提にした先端技術依存型でしたので、原子力が今回の震災で否定されることにもなる、そのシナリオ自体が成り立たなくなります。それに代わるものは「自然エネルギー」か？ 大量のエネルギー消費社会の変革か？

エネルギーとの関係で見ると、これは関心が持たれなかった技術(手動電灯、薪ストーブ、ソーラーランタン、非電化製品、など)が、しかも、これは災害時に役立つということだけでなく、今後の低炭素を目指すエコ技術としても有効であることが認められて、引き合いが増えていることとです。このことが与える教訓は、『災害向けは低炭素向けと共通する特性を持つ』です。(表2・写真)

氏が言うように、原発の利益を得るのは『株主』であることは明らかですが、その被害は主に地域の住民と国民にいくのでしよう。

「教育の方向」は、『戦士の養成から、真の“市民”の養成?』

表1 都市、街づくりの方向

表2 エネルギー源の選択

表3 社会とは誰のものか

表4 倫理観の転換

表1 都市、街づくりの方向

表2 エネルギー源の選択

表3 社会とは誰のものか

表4 倫理観の転換

表1 都市、街づくりの方向

表2 エネルギー源の選択

表1 都市、街づくりの方向

表2 エネルギー源の選択

表3 社会とは誰のものか

表4 倫理観の転換

表1 都市、街づくりの方向

表2 エネルギー源の選択

表3 社会とは誰のものか

表4 倫理観の転換

表1 都市、街づくりの方向

表2 エネルギー源の選択

表3 社会とは誰のものか

表4 倫理観の転換

表1 都市、街づくりの方向

表2 エネルギー源の選択

表3 社会とは誰のものか

表4 倫理観の転換

表1 都市、街づくりの方向

表2 エネルギー源の選択

表3 社会とは誰のものか

表4 倫理観の転換

表1 都市、街づくりの方向

表2 エネルギー源の選択

表3 社会とは誰のものか

表4 倫理観の転換

表1 都市、街づくりの方向

表2 エネルギー源の選択

表3 社会とは誰のものか

### 東日本大震災 義援金寄付のご報告

未曾有の災害に見舞われた東北三県に対する支援をと、去る7月12日、私と評議員の山下薫の二名で福島、宮城、岩手の三県を訪問させていただきました。

震災により被害を受けた子供達への支援ということで福島県の南相馬市、南三陸町から避難されている子供達がいる宮城県の登米市、市全体が破壊されてしまった岩手県の陸前高田市の各教育委員会をお訪ねし、それぞれ教育長さんに義援金50万円ずつをお渡しして参りました。

単に銀行に振り込むのとは実際に震災の悲惨な状況を体感するのでは大きな違いがあると思っておりますので往復1250キロの行程を一日がかりで行って参りました。朝4時に長野を出発し日本海側から高速道路を走らせ東北へ向かいました。

最初に訪れた南相馬市は原発の影響が大変大きいところで、行く途中の飯館村から南相馬市までは畑や田んぼには農作物が一切無く、荒れ果てた農地を見ることが大変悲しく涙を抑えることができませんでした。

南相馬市では青木紀男教育長さんが対応下さり、災害の状況を説明して下さいました。

海岸近くの小学校が津波の影響で流され、また原発による目に見えない恐怖の中で子供たちが頑張っている様子をお話し下さいました。

その後、南相馬市から海岸沿いに北上した登米市では片倉敏明教育長さんに対応いただきました。

登米市自体は津波による被害はないのですが南三陸町からの避難されている子供達へのサポートなどに対して義援金をお使い頂くようお願いをして参りました。

さらに海岸線を北上し陸前高田市には午後3時頃到着致しました。市自体が一面の廃墟となっており、県の教育委員会から陸前高田市教育委員会へ出向されている星野俊一主査に携帯で電話すること10分。車で迎えにいられ庁舎に案内いただきました。



南相馬市周辺には放射能の影響で、作付けしていない田が広がる



義援金は福島県南相馬市教育長青木氏へ贈呈



登米市へ道中の田では津波の影響で震災3ヶ月後でもごみや倒木が散乱



義援金は宮城県登米市教育長片倉氏へ贈呈



陸前高田市への道中で、津波の影響で倒壊した建物が無数に



陸前高田市の繁華街は、今では跡形もない



陸前高田市：倒壊した建物の瓦礫がマンション並の高さに積まれている



義援金は岩手県陸前高田市教育次長金氏へ贈呈

### 被災地における「子供たちの教育」を支援する義援金を募集しています

ご支援頂ける方は、お振込み時に「義援金」と明記頂くかご連絡の上、次の口座までご支援下さいますようお願い申し上げます。

- ゆうちょ銀行振替口座 00520-3-42181
- 八十二銀行 本店営業部 普通 1093531

いずれも名義は 公益財団法人 いのちの森文化財団 第2次締め切り 平成23年12月31日

時間と労力と資金を必要としていることは歴然としています。とりわけ福島県の放射能による汚染は今後日本のエネルギー政策にも大きな課題を投げかけています。

原発に頼らないエネルギー政策と国民一人一人の地球環境に対する意識の向上を私たち自らの課題として取り組んでいく必要を強く感じ、また決意し1250キロの行程を駆け抜けて参りました。引き続き支援のための行動を続けて参りますので、皆様からのご支援もよろしくお願い致します。

公益財団法人いのちの森文化財団 副代表理事 塩澤 研一

【ご寄付頂いた皆様】 山下啓一、高野道隆、水輪の会、山下洋子、増田稔、福山祐子、他匿名の皆様(敬称略・順不同)

### メモント・モリ

「死を想え」

ラテン語の宗教用語である「メモント・モリ」とは「汝死すべき存在であることを忘れるな」とも訳され、私がこの言葉を最初に目にしたのは今から30年ほど前になる。

それは写真家である藤原新也氏の「全東洋街道」という写真エッセイ集と同時に出版された写真集の名前であった。

藤原新也は28mmの魚眼レンズのみを用いてアラブの世界からインド、タイを経て高野山に至るシルクロードを旅し、そこでの人間の生活や自然をカメラに納め、エッセイや写真集として幾つかの本を出版していた。この「メモント・モリ」という題の写真集には彼の短いコメントが記されている。

「人間は犬に食われるほど自由だ」「あの人骨を見たとき、病院では死にたくないと思った。なぜなら、死は病ではないのですから」「よく気をつけて見ていると、足もとに、いつも無限の死がひそんでいる」などなど写真に添えられた言葉は胸を刺すようなひびきがある。

生と死を自然そのものと捉え、宇宙に遍満する生命エネルギーを一見無感動的にカメラを通して私たちの前に「ほらっ」と放り出して見せるかのような、何とも言えない凄さを感じてしまう。

この写真集は読み始めて現在で3冊目になる。もしかしら一番長く多く読んだ本かもしれない。いや読んだというより「見た」と言った方がよいだろう。不思議と手にする機会が多く、写真とそこに書かれた言葉に目をやる。何処かしら共感している自分がいる。

振り返ってみると私にとって「死」は若いときから身近にいたように思う。

27歳の時待望の娘が生まれた。それまで描いていた「幸せな家庭」や「親子のふれあい」などの像は医師からの冷酷な宣告により破壊され捨て去られ、地獄のどん底に

突き落とされてしまった。生まれながらにして「死」と同居して生まれた娘の存在は「すぐにも壊れてしまう」かのような細かいものであった。

慈しみ精魂傾けて育ててきた。10歳までしか生きられないと言われた娘は何度も何度も死線をさまよいながら36歳になる現在まで生き永らえてきた。

奇跡とも言えるこのいのちを育て育てて気がついたら私たちも還暦を遙かに過ぎ、残すところわずかの命となつてしまった。

一般的に人間は年を取るほど「死」に対する恐怖は増すように思う。なぜなら「死」がより身近になつてくるからでもあると思う。仮に健康で平均寿命を生きたとしても残された命は数えられる程身近になつてくるからでもある。年を取ると「認知症」になるお年寄りが増えてくるが、これは必ずしも「脳」の退化、老化だけによるものではない。

「死からの逃避」「恐怖から逃れる」という無意識の生命的な働きがその裏に働いているからではないかと思うのは私だけであろうか。

今年の1月16日、90歳になった母親が他界した。83歳から認知症が進み、不本意ながら老人施設にお世話になり7年をここで過ごした。同室の大変仲の良かった方が11月に他界され、その後を追うように食事を採らなくなり、脳梗塞を併発し脳外科入院。一旦退院したものの食事を拒否し退院後ちようど1ヶ月でこの世を去った。

母の生涯が幸せであったか否かは今の私には計り知ることはいかない。

私の父親もこの3年間、飯綱の地で何とかお世話をさせて頂いてきたが母親同様に認知症が進み、排泄や入浴などの自立ができなくなり、この夏から施設にお世話になつていく。

問題は死ぬ時の意識のありよう

私はかねてより「死に方」は問題ではないと感じている。病気で死のうが交通事故で死のうが、老衰で死のうが死に方はどうでもよいのではないか。問題なのは死ぬ時の意識のありようだと思ふ。いやむしろ「死」は感情的なものではなく「あら、そこにいたの」とも言うような自然の存在の様に思ふ。

若いとき見た「明日に向かって撃て」という映画があった。ポールニューマンが演ずる実在したフツチとサンダンスのいわゆる強盗の生活で生きる若者達を描いたもので、最後は警察に囲まれた中で銃を撃ちながら突撃して死んでいく姿を明るく描いたものだ。

私は死はそれほど怖いものとは思わないが、恨んだり喜んだりという感情的なものではなく、いわば「あっ、そう」とも表現できるようなものではないかと思つている。

何年か前になるが、雨の日に三車線ある国道で交差点のど真ん中でスリップし、車が三回転じて交差点の端にストンと止まったことがある。外を見ると周りの車が全て停車しており窓からこちらを見ている。不思議な光景であった。車が回転している時の心境は「あっ、これで死ぬのかな、ちよつとまっすつちやっつたよね」といっ

たもので瞬時に「死」を受け入れている自分があった。その瞬時に何十年かの人生が駆けめぐるのだが、これといって良かったとか悪かったとかいうものではない。今ここの瞬間にあらうものではない。今から行くよ、といったものであり、大仰に構えたものではなかった。

この様な心境に至るのは「今日一日、今日一日」の結果であり、私自身も何度かの死の宣告を受けてきたからかもしれない。

私は「死」はそれほど軽いものとは思っていないが、この「死を想う」ということが深まれば深まる程「生きる」ということが大事になつてくるのではないかと思ふからである。

「いのちの森文化財団」の使命はこの「いのちの営み」を宇宙の意志から解き明かし「美しい魂」となつてあの世に帰って行くための学びと生活を提言し日々実践していくことにあると思つている。

本年は公益財団として再スタートするにあたり、改めてこの財団の存在する意義と使命を心に刻んでおきたいと思つているが、いのちの森構想の最終章である「死を想う・医療と養生の統合」を主題にし、ホスピス・緩和ケア事業(定款変更が必要)も視野に入れた死生観を深める事業に全国の皆様からの浄財のご寄附を心よりお願いしたい。

公益財団法人いのちの森文化財団 副代表理事 塩澤 研一

### 「いのちの森構想」最終章のテーマは「死を想う」

～「死を想う」ことが深まる程「生きる」ことが大事になってくる～



塩澤 研一 (公益財団法人いのちの森文化財団 副代表理事)

「明日に向かって撃て」という映画があった。ポールニューマンが演ずる実在したフツチとサンダンスのいわゆる強盗の生活で生きる若者達を描いたもので、最後は警察に囲まれた中で銃を撃ちながら突撃して死んでいく姿を明るく描いたものだ。

### 「死を想い、より良い生を生きる・医療と養生の統合」事業への寄附金を募集しています

お振込み時に「死生観深化事業への寄附」と明記頂くかご連絡の上、上記の義援金と同じの口座までお振込みをお願い申し上げます。

※公益財団へのご寄附は損金として計上でき、税務上の優遇措置が手当てされています

たもので瞬時に「死」を受け入れている自分があった。その瞬時に何十年かの人生が駆けめぐるのだが、これといって良かったとか悪かったとかいうものではない。今から行くよ、といったものであり、大仰に構えたものではなかった。

この様な心境に至るのは「今日一日、今日一日」の結果であり、私自身も何度かの死の宣告を受けてきたからかもしれない。

私は「死」はそれほど軽いものとは思っていないが、この「死を想う」ということが深まれば深まる程「生きる」ということが大事になつてくるのではないかと思ふからである。

「いのちの森文化財団」の使命はこの「いのちの営み」を宇宙の意志から解き明かし「美しい魂」となつてあの世に帰って行くための学びと生活を提言し日々実践していくことにあると思つている。

本年は公益財団として再スタートするにあたり、改めてこの財団の存在する意義と使命を心に刻んでおきたいと思つているが、いのちの森構想の最終章である「死を想う・医療と養生の統合」を主題にし、ホスピス・緩和ケア事業(定款変更が必要)も視野に入れた死生観を深める事業に全国の皆様からの浄財のご寄附を心よりお願いしたい。

公益財団法人いのちの森文化財団 副代表理事 塩澤 研一

### 水とことばの研究についての補足：氷結結晶

前回のコラムに続き、今回も言葉の働きについてのお話になります。前回のコラムに読者の方から質問をお答えする形でこのコラムを書いていこうと思います。

まずは、前回のコラムで水の結晶、江本博士の研究をご紹介させていただきます。その中で『水の結晶が崩れる』というお話がありました。

か？もし腐るといふ場合は、なぜ腐ってしまうのでしょうか？という質問をいただきました。前回のコラムで説明が不足した部分を、補う形で詳細を書かせていただきます。

まず答えですが、「腐る」ということではありません。紹介させていただいた江本博士の水と言葉の研究は、「氷結結晶」を観察したものです。詳しくは氏の論文やウェブサイトに紹介されているのですが、江本博士の水の結晶の観察は、以下の工程を経て行われました。

まず、水をシャーレに数滴落とし、冷凍庫で水を20〜25度で2〜3時間で凍結させて、その結晶を写真撮影しました。水の氷結結晶の撮影を行う条件は、サンプルの水を5度H2度の部屋で200倍の顕微鏡で観察するというものです。その時の照明の熱で氷が溶け出し、水に戻る瞬間の一瞬に出来る結晶を観察、撮影しています。水の結晶の変化には、このような特別な環境が必要となるので、個人が実験検証することは不可能な



## 「脳と心」シリーズ 連載第15回 言葉の働き (2)

—水とことばの研究について—

角田佳菜子

(ニューヨーク州立大学卒業  
バイオニューロサイコロジ—専攻)



### 六角形の雪のかたち



ようです。中学生の頃の理科の授業を思い出してください。水はH2Oと表され、H2O分子が規則的に配列した結晶です。水の結晶構造は六方型になります。教科書にあったアルファベットと線の図だとびんとこないかもしれませんが、クリスマスや冬の時期に街角でよく見かける雪の六角形のモチーフを思い出してみて下さい。「綺麗な形」の水結晶はまさにあのような形をしています。結晶が崩れる、ということは構造がいびつな形になる、ということ、腐る、ということとは違うのです。

江本博士の研究では様々な川や湖の水の結晶の報告がなされています。氏の研究報告によると、いわゆる「良い水」はとても美しく

バランスの取れた六角形の結晶構造を示すことがわかりました。逆に汚染された水の場合には、美しい結晶構造が見られなかったという事です。特別な環境で観察された水の結晶に、氏はさらに言葉をかけて、音楽をかけてみたり、様々な方法で水に込められた感情や情報を観察されています。

こんな風に書く「水の結晶」は、科学的で特別な環境でないと思えないもののように思われるかもしれませんが、実際、前述の結晶



汚染されていない河川の水は、バランスの取れた結晶をつくるという

観察の科学的手法は1994年に江本氏によって考案された、水の知られざる特性を探るために開発された技術とされています。けれど、水の結晶の写真自体は、それ以前から存在しています。

ウィルソン・ベントレーというアメリカのアマチュア写真家です。19世紀の人です。彼は雪のアマチュア研究者、雪の結晶の写真家として知られています。1880年、彼が15歳の時に、母が顕微鏡を通して見た雪の結晶に魅了され、沢山の雪の結晶の写真を撮り続けました。

私は雪深い街で暮らしています。ぼたん雪のような大きな粒の雪が降った時に、窓についた雪をよくよく見ると、六角形のあの形が見えることがあります。何気なく見ている雪。その結晶に何らかの感情や情報がある。冬になって雪が降ってきた時に、この雪の結晶はどんな形かな。綺麗な形をしているだけか、おもしろいかもありません。

身近にあつて、当たり前前に接しているものを科学的に観てみるとおもしろいことがたくさんあります。江本博士の研究は、水は、生命の源であり、生命活動の基本をなすもの、ということを中心に研究されています。江本博士の研究は、科学、物理学、心理学的な要素を合わせた研究です。このように、今の科学的研究は様々な分野をまたいで行われることが多くなって

います。心理学についてもそれは同じことで、これまでのコラムでも様々な分野の要素を含む研究の例をご紹介してきました。いわゆる「理科」「科学」「医学」の視点で行われる研究もあれば、「哲学」「言語学」「文化論」といった視点で行われる研究もあります。目に見えない、数字だけで表しきれない人の「こころ」を研究する分野です。複雑化、細分化されるのも当然の事といえます。言語と感情についての研究もまた様々な要素を合わせた非常に興味深い分野の研究です。

### ことばの研究：身近にあるのに わかっているのにあれこれ

さて、いただいたご質問の中で、声のトーンやその受け取り方についてのものであります。先ほど述べた「言語の研究の複雑さ」を説明できる良い例ですので、ここでも少し、声のトーンについて書こうと思います。

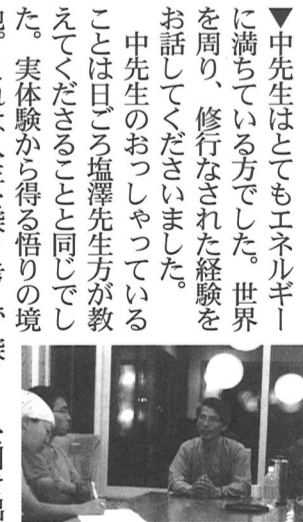
そもそも、声、音声についての心理学的研究というのは、一つの確定的な論理を出すのが難しい分野なのです。なぜなら、世の中には沢山の種類の言語があり、それぞれの言語が独特の法則を持って存在しているからです。例えば、「トーン」は「声調」といわれるものですが、言語において、意味の区別に用いる、音の高低のパターンのことを現し、声調の中でも音の高低の位置や組み合わせ

植物にもやさしく話しかけるときれいに、美しく育つ

このような例は何も私の個人的な経験に限らず、1980年代から多くの研究者によって論じられてきました。声の伝わり方というのは、単純な音のシグナルではなく、喋っている場所や状況、アクセントでそのシグナルが簡単に変化してしまうため、その解析や分析が難しい、というものです。自分の声でも、電話で話すと、エレベーターの中での話、録音した声など、場所や状況でずいぶん違って聞こえます。ですから、「声が高い人と低い人が同じ「ありがとう」といった場合には違いは出ますでしょうか？もし違いが出る場合、それは、なぜ違いが出るのでしょうか？」言葉や思いや意識はなぜ形に影響があるのでしようか？というご質問に対して、これ、という明確な答えを提示することができません。一般的に知られる論説や、研究の主流というものは、「万国で通じるもの」という大きな前提があるので、言葉の研究というのは、難しいのです。

私たちは当たり前のように言葉を使い、しゃべっています。世界中に色々な言語が存在するのにもかかわらず、それでもわかっていること、というのは沢山あります。水や植物に優しく話しかけると、綺麗な形を見せてくれたり、美しく育つ、ということは分かっているのに、では「なぜそうなるのか」ということはよくわかっていない。そう考えると、世の

【報告】青少年育成公開講座 講師 中健次郎先生  
本年去る9月18日、開催された青少年育成公開講座では、気功家の中健次郎先生から青少年の皆さんに、体感ワークも含めて、本当に熱心にお話を頂戴しました。参加された方々よりご感想を頂きましたので、ご紹介させて頂きたいと思っております。中先生、本当にありがとうございました。



中先生が言ってくれたことですが、印象的だったのは今に集中することだった。今の自分の課題でもある、今に集中すること、それは、自分の中に無限の力というものを引き出していくことだということをおっしゃっていた。そのとき僕はハッとしました。今に集中する意味、それを中先生が言われていたのに今の自分は、そのことをすっかり忘れていた。もともと本気になって意識的にやらなければならぬ。これからは今までの自分の考え、意識を改めていきたい。(10代男性)

中とか、生きるということとは本当に不思議なことばかりのように思えてきます。

ことばの研究： 沢山の要素

前回のコラムでは、脳の部位とその働きと言葉について書きましたが、言葉の研究というのは実に様々な分野に広がっています。言葉を読み書きする仕組み、前述の言葉の伝わり方、感情の伝え方、表現方法、私が最近読んだ言語に関する論文でもおもしろかったのは、携帯やメールでの顔文字(テラファベットや記号で感情を表現する文字)でのコミュニケーションについてのものでした。

言葉、言語というのは、地域や場所によっても違いが出れば、時代や文明の進化によっても変わってきます。また話し言葉、書く言葉、読む言葉によっても違いが出てきます。今回、いただいたご質問にお答

【参考文献】  
Sensation and Perception 5th edition: S. Coren, L.M. Ward, J.T. Enns (1999) Harcourt Brace College Publishers pp178-208, pp347-376  
Healing with Water Masaru Emoto. The Journal of Alternative and Complementary Medicine. February 2004, 10(1): 19-21. doi:10.1089/107555304322848913. http://www.masaru-emoto.net

すみだ かなこ: NY州立大学卒業生、現在は同校の大学院に在籍後、現在はリサーチアシスタントとして、Office of Regulatory Research Complianceに勤務。在学中の専門は動物モデルにおける性ホルモンと認知行動 抑うつ行動。

【報告】いのちの大学講座

「心の探求」

平成23年8月26・28日
講師：宮島基行先生
(高野山真言宗阿闍梨)

参加者の皆様より「感想を頂きましたので、一部を紹介させていただきます。この講座では、講義・Q&A・体感ワークを通して私たちの「心」の様々な面について学んでいきます。

●10年前に初めて「心の探求」セミナーに参加させていただいてから、年に1回ペースで少しずつお勉強を続けてまいりました。宮島先生の教えに触れることが出来る貴重な機会を与えて下さるいのちの森の皆様には心から感謝しております。

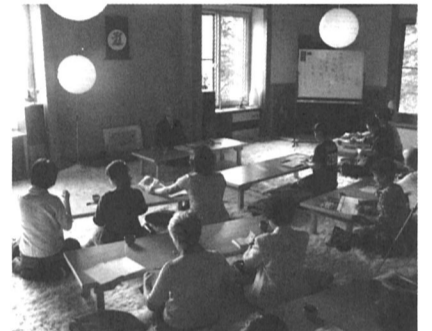
今回もありがたいお言葉を沢山いただけて、「参加できて本当に良かった!」と思っております。

同じお話を何度聴いても、その時の自分の状態で全く理解の仕方が違います。その時は分からなくても、いつか理解できる日が来る、ということもこの10年で学びました。まだまだ入口にいる私ですが、又10年後にどれくらい成長しているかを楽しみに、これから「心の探求」セミナーに通わせていただきます! (Sさん・東京都)

●晩年の母が般若心経を唱えていたのを、ずっと心に掛けていました。今回般若心経のご講義とこのことでしたので参加させていただきました。

仏教についても、経典についても、何も知らなかったのですが、3日間の宮島先生のご講義を拝聴させて頂き、般若心経の世界の入口に立たせて頂いたという感じがしました。仏様の世界は奥深く広大で宇宙を感じさせます。亡くなった父母のこと、幼くして亡くなった兄弟のこと、先祖のことなど、この3日間、いろいろと想いを廻らしました。そして、現在の自分が、その様なつながり(流れ)の先にいて、人だけではなく、動植物に生かされているということに気づきました。(Tさん・千葉県)

●宮島先生のご講義は、字面の解釈ではなく、お経の生まれた時代背景、場面設定、全体構成をはじめ、どのよう



日々の様々な疑問なども質問でき、分かりやすい言葉でお話いただけます

●宮島先生の御講義は2年振りですが、どの瞬間もすばらしく、受け取り手の自分が未熟なため、すべてを受け取り切ることが不可能ですが、少しでもこれから生きていく、骨格を作るため、日常で活かしていければと思います。

●友人に誘われて参加した勉強がこんなにも私にとって必要だと云うことがよくわかった。

●今までの以上の感銘を受けております。深く深く理解は、まだまだ及びませんが、お教えの一部を実践させて頂き、光輝く存在に近付けたらと念じております。本当に素晴らしい御講義有難うございました。感謝致します。また、

●友達に誘われて参加した勉強がこんなにも私にとって必要だと云うことがよくわかった。

●今までの以上の感銘を受けております。深く深く理解は、まだまだ及びませんが、お教えの一部を実践させて頂き、光輝く存在に近付けたらと念じております。本当に素晴らしい御講義有難うございました。感謝致します。また、

●友人に誘われて参加した勉強がこんなにも私にとって必要だと云うことがよくわかった。

来年の1月を楽しみに致しております。(Sさん・千葉県)

●今回、般若心経解説という事で、ポピュラーであるにも関わらず、深い意味を知る機会も無かったため、とても意義のある3日間でした。

●心の探求の勉強会でお作法や品格を身につけたいと思っ参加させて頂きました。

●お経の読誦の仕方、般若心経の内容をわかりやすい言葉でお教えくださいましたので、明日からの読誦も楽しくなりそうです。そして毎朝する事で心をきれいにしていきたいと思っます。

●戸隠神社へ行き、皆様と声明を唱えることが出来ました。日常から離れて、パワースポットを歩き、一人ではできないような体験で、有り難かったです。

●宮島先生の所作、歩く姿も美しいと感じました。静かにそして、凛としている印象、導かれるままに私もこれからの道を歩んでいきたいと思っます。

●夏の畑を見ることができて嬉しかったです。土もふかふかでエネルギーが高いですね。(Nさん・愛知県)



体感ワーク座禅も初心者にも分かりやすくご指導いただけます

2011年~2013年 いのちの森文化財団主催事業 いのちの大学講座 (学長 帯津良一 副学長 巽信夫) ~一人一人の生き方を深める~

集中内観セミナー【随時開催】
面接 塩澤研一(日本内観学会会員)
自身の過去を振り返り、父、母などとの人間関係の中で、①お世話になったこと、②して返したこと、③迷惑をかけたことの3点について調べていきます。その結果、自分を客観的にとらえ、今後の生きるビジョンが見えてきます。

リーダーシップセミナー【随時開催】
講師 塩澤みどり(いのちの森文化財団理事長)
生活と仕事を通して学ぶ。心の持ち方、人との関わり、志。人を導く立場の方に必要な資質・能力を身につけます。リーダーシップを発揮するために人格を磨き、人を引きつけ導く力をつけていきます。

こけ玉グリーンアートセラピー【随時開催】
こけ玉は私たちの心の風景を映し出し、元気を与えてくれます。出来たこけ玉は手入れをすれば何年でも生き続けます。指を使い土を練り、こけ玉をつくるプロセスを通し忘れていた大切なものに出会っていきます。

いのちの森の学校【随時受入】
知力・体力・気力を充実させ、人間力・仕事力・徳力・生活力を養い、若者の「働く」と「自立」を応援します。体験入学受付中(2泊3日)
【内容】職場実習トレーニング:清掃、畑、調理、接客など実践現場で実習、生活指導を経て、真剣に自分の仕事と人生に向かい、志を持って生活をする。様々な勉強会:「働き方」の輪読、講話、日々の生活の中でのQ&A、パソコン実習ほか、お楽しみ会もあります。

シーズンチャレンジボランティア【随時開催】
つながりあおう人と自然と大地といのち。ボランティア保険にも加入しています。

Webカウンセリング【随時開催】
財団では、Webカウンセリング事業(無料)を行っております。

※詳細はお問い合わせ下さい
いのちの森文化財団事務局 TEL 026-239-0010

脳と心セミナー
講師 久間祥多先生(脳神経外科医)
2011年 11月19日(土)~20日(日)
脳と心の関係を探り、私たちの無限の可能性を探ります。また、意識によって脳と心をどのように良い方向へ向けてゆくことができるのか、具体的にお話頂きます。脳と心に関するどんな質問も受け付けます。
【参加者の感想】自分は今まで、出来るだけポジティブに考えるようにしていたのですが、まだまだネガティブに考えてしまっているところ気づかされました。...この勉強会でポジティブに考えることがどれだけ体にも心にも良いかということが分かりました。これからは、全て認めてポジティブに考えていきたいです。(Yさん・愛知県)

気功合宿
講師 中健次郎先生
2012年 9月15日(土)~17日(月・祝)
気功・太極拳・家庭療法・瞑想法・心のあり方・東洋哲学・東洋医学等を指導されている中先生の気功合宿です。中先生著書:『病気が治る「気功入門」』DVDブック(マキノ出版)
【参加者の感想】気功を学ぶのは初めてでしたが、今回参加させていただいて本当に良かったと感謝しております。中先生の講義はとにかくそのお人柄に溢れていて、とても元気を頂きました。主体と客体の話など、参考に...というより心にしみるものが多かったです。お仲間にも恵まれ本当に充実した3日間でした。そしていつもながらスタッフの皆様の素晴らしい心からお礼申し上げます。(Sさん・千葉県)

青少年育成公開講座
各界第一線で活躍の先生方をお招きし、青少年育成のための公開講座です。親子でもご参加いただけます。(参加費無料)
2011年
11月 田山重晴先生(県立農業大学校特別教授)
12月 田中昭先生(1級建築士)
2012年
1月 宮島基行先生(高野山真言宗阿闍梨)
2月 江見いづみ先生(㈱アフリカタロウ代表取締役社長)
3月 帯津良一先生(帯津三敬病院名誉院長・ホリスティック医学協会会長)

がん患者のための合宿養生塾
講師 帯津良一先生(帯津三敬病院名誉院長)
2011年 11月25日(金)~28日(月)
2012年 3月23日(金)~26日(月)
5月18日(金)~21日(月)
8月24日(金)~27日(月)
10月26日(金)~29日(月)
2013年 3月29日(金)~4月1日(月)
免疫力・自然治癒力を高め、病を克服し、明るく希望を持って生きるための実践講座です。手術、サプリメント、代替療法、心の持ち方、その他どんな悩みにも帯津先生が直接お答えする車座交流Q&Aの時間がたっぷりあります。

「いのち学」
講師 帯津良一先生(帯津三敬病院名誉院長)
2011年 11月25日(金)~27日(日)
2012年 3月23日(金)~25日(日)
5月18日(金)~20日(日)
8月24日(金)~26日(日)
10月26日(金)~28日(日)
2013年 3月29日(金)~31日(日)
志高く、人を患者を尊重する言葉の在り方、帯津先生の存在そのものの在り方を学びます。本年は特に帯津先生の40年以上にも渡る豊富な臨床実践例から統合医療についても学びます。

ひきこもり・不登校・ニートなどで悩んでおられる親子で学ぶ相談勉強会
講師 巽信夫先生(信州大学病院外来専任医)
2011年 11月11日(金)~13日(日)(予定)
臨床歴40年以上の大変豊富なご経験と見識をお持ちの巽信夫先生をお招きし、様々な事例を通して学ぶ貴重な勉強会です。親子でも、親御さん・ご本人だけでもご参加頂けます

心の探求
講師 宮島基行先生
(高野山真言宗阿闍梨 南山進流声明第一人者)
2012年 1月7日(土)~9日(月・祝)
ご要望をいただき、8月に引き続き、来春も般若心経を中心に学びます。般若心経の真髄、生活の中でのかかし方を高野山の宮島阿闍梨に直伝して頂きます。また、あわせてご真言も教えて頂き、日々の心のあり方や生活が良い方向に導かれるように、ご指導頂きます。